

# 能登島「どじょう養殖実証事業」

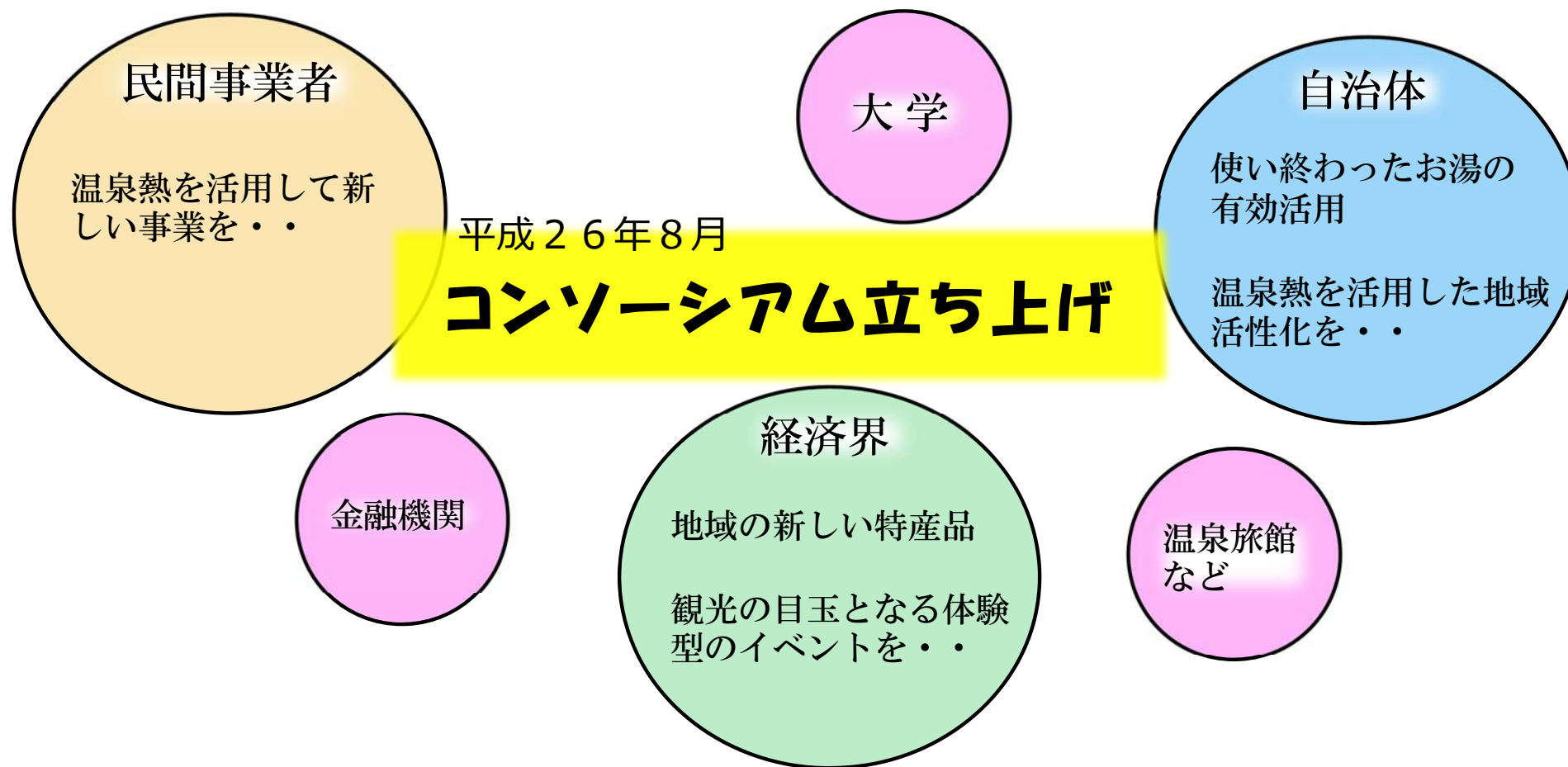
令和2年10月2日

株式会社ファーム・エンジン  
七尾市産業部商工観光課

# 事業に至る経緯

## コンソーシアムの立上げ

豊富な温泉資源があるのに活用されていない・・・



## コンソーシアムの活動

勉強会や先進地視察、委託調査等により地熱の活用方法を研究

- ・ 温泉熱を利用した新たな事業
- ・ 体験型イベント
- ・ 地域の新しい特産品開発
- ・ お湯の再利用 など

様々な活用方法を議論



地熱発電と熱水のカスケード利用に着目

## 事業化に向けた検討

### 地熱発電

- 温泉資源枯渇への懸念
- 湯量、温度、採算性



~~事業化は困難~~

### 熱水のカスケード利用

- 温度が下がったお湯を利用
- 足湯や温泉卵のお湯を再利用



事業化可能



①熱水を利用した温室ハウスの整備

②熱水を利用した水産物の養殖

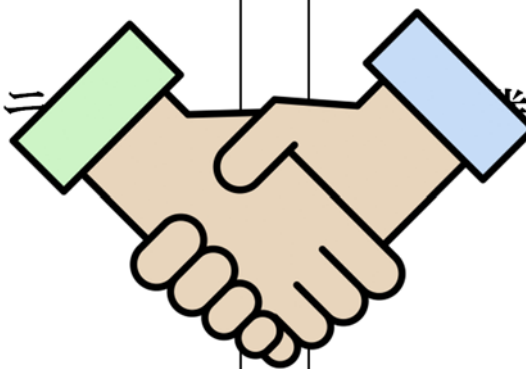
## どじょう養殖実証事業スタート（平成30年9月～）

### 七尾市が目指すもの

- お湯の有効活用
- 新たな特産品、地域ブランド化による産業振興
- 雇用の場の確保

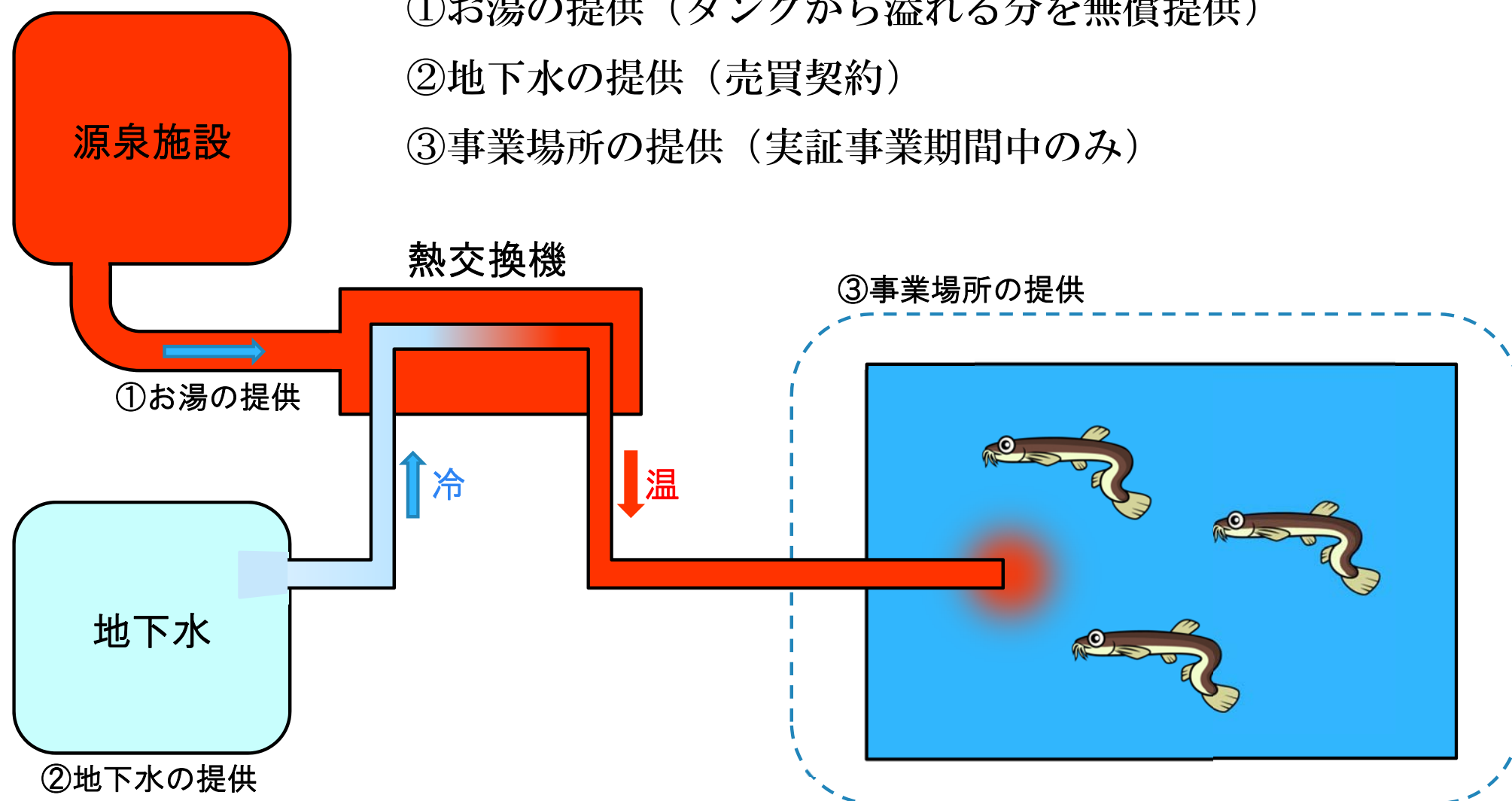
### 事業者が必要とするもの

- 温泉資源の確保
- 産出場所の確保



## 七尾市の役割

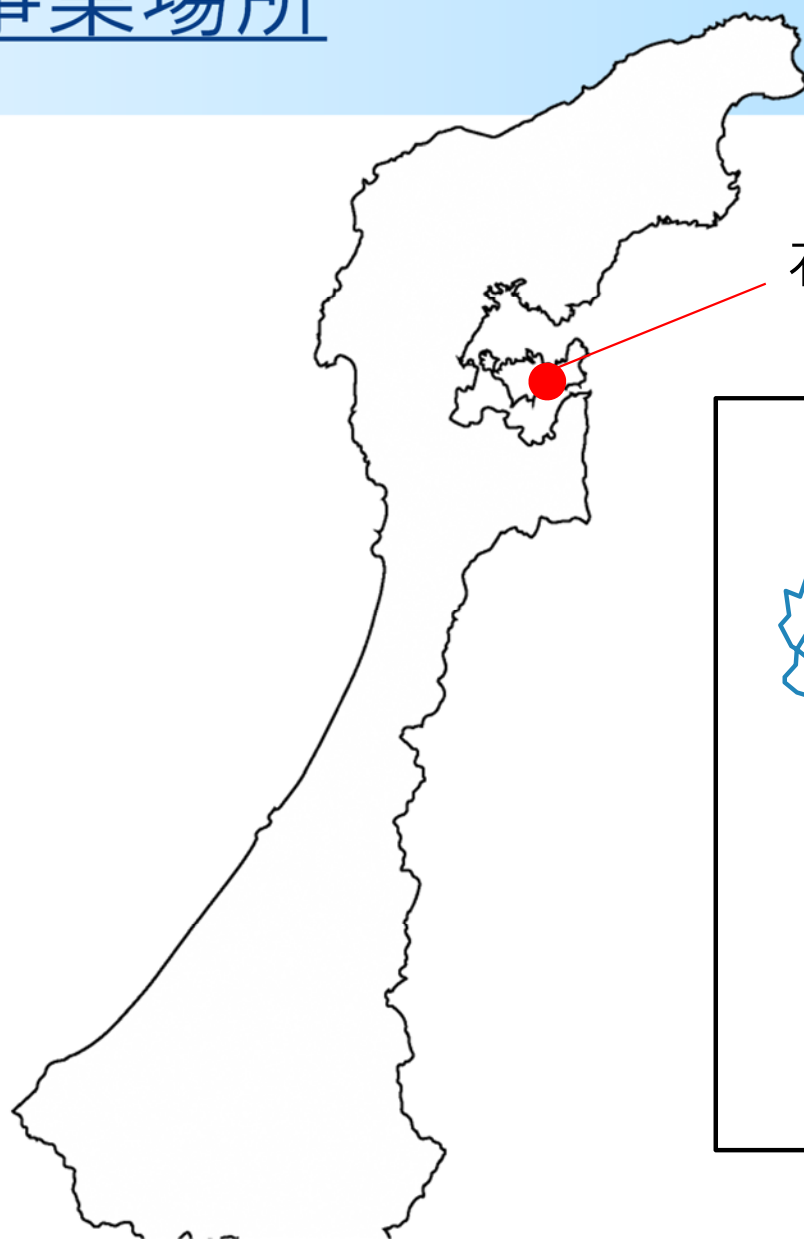
- ①お湯の提供（タンクから溢れる分を無償提供）
- ②地下水の提供（売買契約）
- ③事業場所の提供（実証事業期間中のみ）



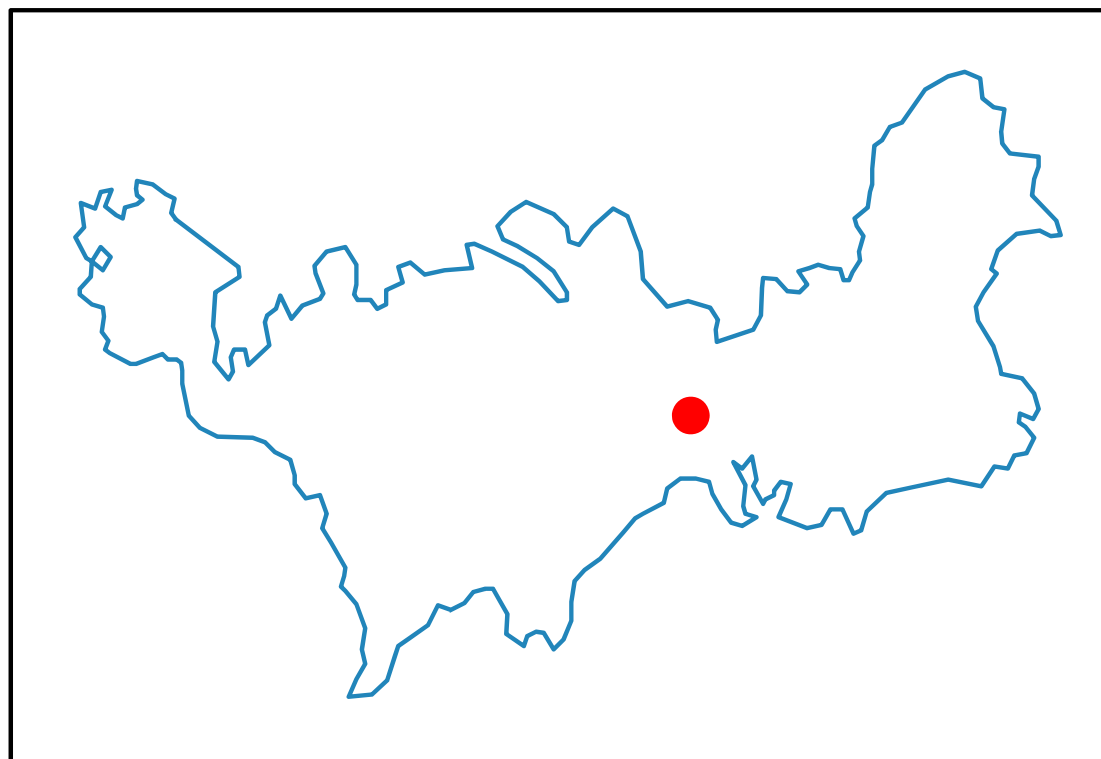
# 事業概要



## 事業場所



石川県七尾市能登島向田町



# 養殖システム





(養殖施設全景)



(養殖施設内部)





(熱交換機)



細い管の中を地下水が通る



地下水が通る管の周りに温泉水  
を流し地下水を温める

(どじょう※稚魚)



(どじょう※出荷時)

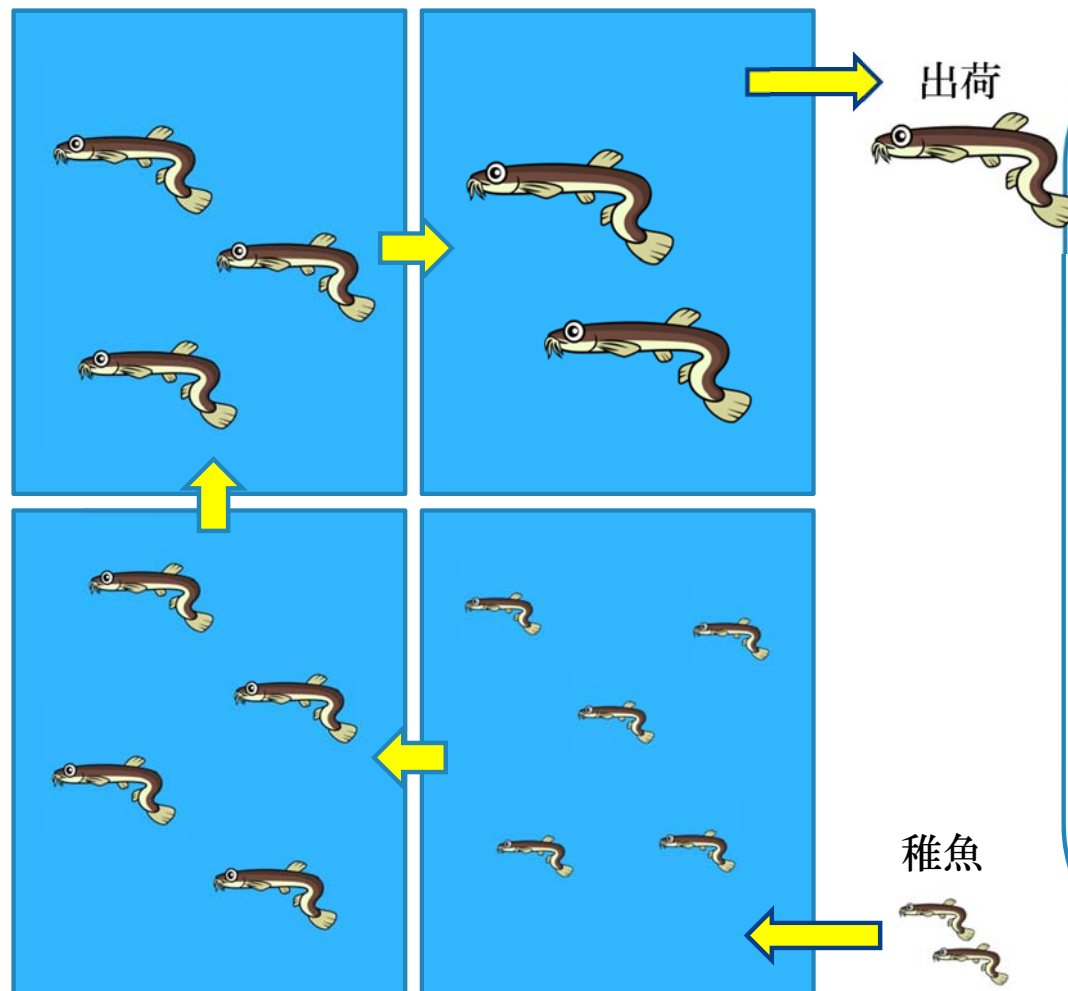




# 温泉水を活用したどじょう養殖のメリット

通年で安定した供給ができるよう、どじょうのサイズごとに水槽を4つに分けて飼育

《養殖サイクル》



① 25℃～28℃の温度を保つことで、冬眠をせず成長が早い。

② 年間を通して安定供給が可能。  
(定時・定量・定品質・定価格)

③ 水槽を利用する為、回収率が高い。  
(田んぼ、ため池の養殖は回収が大変)

④ 温泉水をエネルギーとするため、ランニングコストの軽減。

⑤ 高密度での養殖が可能 1,000匹＝m<sup>2</sup>  
(田んぼ、ため池 100匹＝m<sup>2</sup>)

# 将来構想

## 将来構想

「能登島どじょう」  
としてブランド化

全国の  
消費地へ

加工・販売

出荷

大消費地  
金沢

※今はほとんどが県外産

出荷

地元雇用の創出

地元の民宿や温泉旅館  
等の食事で提供



その他に、民宿業者や旅館関係者、地域の飲食店の関係者を集め、料理教室などを開催予定





ご清聴ありがとうございました。